



全町連だより

第23号

町内会加入率調査 (R4年11月末)

人口・・・22,744人 加入世帯数・・・4,204世帯
世帯・・・11,455世帯 町内会加入率・・・36.70%

中標津町全町内会連合会だよりは、中標津町のホームページ(生活環境)にてカラー版を閲覧・ダウンロードできます(<http://www.nakashibetsu.jp/kurashi/seikatsu/zenchouren/>)

●町内会についてのお問い合わせ

中標津町全町内会連合会事務局 TEL 0153-73-3111 (内線220)



2023年の新春を迎えて



中標津町全町内会連合会

会長 佐々木 優

新年を穏やかに迎えられた事にお慶び申し上げます。また日頃より町内会活動にご協力いただきありがとうございます。

誰もこの1年で世の中がこれほど変化するとは思っていません。たのしみではないでしょうか。世界情勢の影響は中標津町にも及ぼし、基幹産業である酪農は、飼料・肥料の高騰や生乳の出荷制限がなされ、今迄元気だった基幹産業が落ち込み、今後の、町の経済にも影響するものと予想されます。コロナ禍でありましたが、「中標津町牛乳消費拡大応援条例(牛乳で乾杯条例)」を推し進め、地産地消、牛乳・乳製品の消費拡大運動に会員一同で応援しましょう。

さて、町内会では「町内会員割引制度」が12月10日より始まりました。協賛店で町内会員証を提示すると割引や特典が受けられる制度で、全国的にも数少ない制度です。

今居る会員様に感謝を込めて、会員になっているメリットを感じていただき、今後の会員減少に歯止めがかかるようになればと思います。また協力いただいた協賛店様に沢山の会員が足を運んでいただき、地域の活性化につながればと思っています。

今後とも協賛店を随時募集していきますので地域の企業、店舗の皆様にはご支援の程宜しくお願い致します。

昨年は、なかしべつ町民活動ネットワーク様の主催による町内会長アンケートの調査が行われました。全町内会連合会ではこの結果をもとに、今後の町内会活動の見直しや組織のあり方等の話し合いを進めて行きます。

災害は何時やってくるかわかりません、困ったとき、いざという時に備え、役に立てる魅力ある町内会を目指し、町民・議会・行政・団体企業の協力を得ながら、一緒に育て、作って行きたいと思っています。

末筆ながら、新しい年が皆様にとって、良い年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

あいさつ、みまもり、たすけあい
こどもの安全のみまもりを
こころがけて
いきましょ

令和4年度 第1回女性部研修
「大人の発達障がい」の特性とは...

特性とは...

全町連女性部長 端 裕子

令和4年度全町連女性部第1回研修会を10月20日に寿宴に於いて、子育て応援クリエイターの水野正司さんを講師にお招きし「大人の発達障がい」について勉強しました。



脳の発達のはじめに社会的不適応が加わることで「発達障がい」があらわれます。決して心や育て方により起こるものではありません。ある特定の分野においては優れた能力を発揮する人は、アインシュタイン・ビルゲイツ・坂本龍馬・トムクルーズさん等たくさんいます。成功して活躍している人は社会的不適応ではないので、「発達障がい」ではないのです。また、大人になつてから「発達障がい」になる人もいません。

それは、生まれた時から脳の発達の凸凹をもっており、周囲の人に「発達障がい」を特徴や個性の一つとして捉えられていたからです。教師が困る生徒のランキング1位は強くこだ

わること、第2位は乱暴・暴言を吐く・指示に従わない等と言われている。発達障がいをもつ生徒は、学習障害やコミュニケーションの苦手・不器用等もありますが、高校に入學しても授業についてゆけず不登校になり、やめてしまうケースが多い傾向にあるので、「発達障がい」の特性を理解して周囲の理解を得ることや小人数でゆつたりと過ごしやすい学校を選択することが重要と考えられます。また、社会人になつて、仕事のミスが多い・仕事が続かない等、社会的不適応を起こす事で「大人の発達障がい」と認知されることもあります。「発達障がい」をもつひとは繊細な感性も持つており、些細なことでストレスを感じますので、そのストレスの源を取り除き、楽しい時間を大事にする環境づくりが大切であるとお話しされ、聴講させていただきました。

中標津町全町内会連合会
町内会員証
2022年12月10日から
使用開始となりました!!
詳しくは、下記のQRコードへ

町内会員割引制度が始まりました。

全町連ホームページ

令和4年度第1回

町内会会長会議開催

11月29日 中標津町総合文化会館（「ミニミニホール」）で各町内会会長（代表）及び当会役員24名と事務局・関係者5名が出席して開催されました。

佐々木会長の挨拶の後、町内会カード事業（町内会員割引制度）の12月10日からの運用について、経過と発行・広告について館下総務部長から説明があり、今後とも協賛店の拡大にむけ各町内会と協力して取り組む事を申し合わせしました。続いて、当会の新年会については「コロナ禍のため、3年連続となる中止と決定しました。次に、現在話題となっている事項について役場担当者から説明を聞き、意見交換を実施しました。内容は、

①合葬墓のありかたについて…近年、お墓の維持管理や建設費用の高騰により新規の墓地画許可が激減し、「墓じまい」等で区画返還が増えており、民間のお寺などで「合葬墓」を運営するところが増えはじめ、町営墓地に対しても宗教等にとられない「合葬墓」の問い合わせが多く、先に建設されている別海町の「合葬墓」を参考に、令和5年度に予算化・発注して秋には中標津墓地（無縁仏の北側）に建設（2千体規模）し、令和6年4月頃をめどに中標津町民を基本に申込みを開始したい。金額は未定。（役場 生活課環境衛生係）

②公共交通のありかたについて…町内バス・地域間バス等「地域公共交通機関」のありかたについて、「中標津町地域公共交通活性化協議会（利用者代表・中標津町・交通事業者・道路管理者（国・道・町）・中標津警察署・運輸局・振興局等）」を設置し、現在、4回の会議と乗降調査（現状アンケート調査・町民意見交換

会を実施している。令和5年3月を目途に、調査結果を参考に、本町に合った「中標津町地域公共交通計画」の策定を進めています。（生活課交通町民相談係）

③白樺並木の保存について…酪農試験場圃場を東西（中標津保健所・中標津高等学校）に横断する道路の両脇に植栽されているシラカバを含めたこの道は、通称「白樺並木」として古くから多くの町民に親しまれ、中標津町の「町木」であり代表的な景観となつてい。シラカバの寿命は30年ぐらいが限界であり、旧北海道農事試験場根室支場の開場時に植栽されて90年以上を経過したこの白樺並木は、当町の貴重な歴史遺産の一つとなっています。昨年倒木が相次いで発生し、道路利用者の安全のため、昨年5月に樹木医の協力のもと、役場関係部署が立会・目視調査を行い危険樹木の抽出（40本弱）と緊急性の高い危険樹木数本の伐採を行いました。本年度に入り、任意団体「みんなの景観なかしべプロジェクト」の協働により、これまで未調査であった並木の調査と、樹木の数や樹種、樹高、直径等の調査も実施し全部で249本を抽出しました。この調査を基に10月に樹医を招聘し、詳細調査と診断を行い、35本が危険木と診断され11月末にこの木の伐採が終了したところです。今後、「白樺並木保存」について、町民会議や検討会をとおして進めていきたいので、参加・協力をお願いしたい。（都市住宅課都市計画・景観係）

最後に、「コロナ禍で各町内会活動が停滞している状況にありますが、出来る活動・新たな活動を取り入れて、各町内会活動が活発になる事を期待すること、長正路副会長の挨拶で閉会しました。



私たちの町内会④①

桜ヶ丘町内会会長 斎藤 秀二

わたしたち桜ヶ丘町内会は、現在250戸の会員で活動しておりますが、当地域も会員数減少の波に日々魅力ある活動を研究しております。当会の活動は、春の斉清掃（5月）に始まり、児童公園整備事業（5月）、三運動会親睦会（6月）夏休み子どもラジオ体操会（7月）、おやこ夏祭り（8月）、親睦パークゴルフ大会（8月）、餅つき体験研修会（12月）などの行事を開催しております。※現在コロナの影響で休止。特に、三運動会親睦会では、特色ある種目に、パン食い競争や、ケツ庄測定（おしり）で風船を潰し割る、防災担架リレーなど、参加しやすい面白い種目づくりに加え、防災意識を高める内容を組み込むなど、町内会行事としての工夫が施され、多くの参加者に歴史ある行

事として継続されております。また、老人クラブと連携したぶどう狩りバスツアーや、レクリエーション活動が充実する「さくらサロン」にも取り組んでおります。

多くの世代が交流する様々な行事が、桜ヶ丘地域に住む会員同士の信頼感に繋がり、安心安全な地域で、孤立者を出さない相互の幸せを願う、そんな地域づくりを目指して取り組む魅力溢れる町内会であります。



運動会
餅つき大会

私たちの町内会④②

東西竹地区協議会会長 須崎 剛

私たちの町内会は、高倉健の「還かなる山の呼び声」で口ケ場所となつた西竹小中学校（H27閉校）の校区内のJAけねべつ管内にあり、JA中標津管内に隣接した農村地帯です。地区の開拓は昭和15年頃から始まりましたが、南千島・満州からの戦後引揚入植で、入植当初から酪農経営を営む会員が多い地区です。町内会活動は、4月総会、5月東西竹会館・集落集会場・東西竹神社周辺の環境整備（草刈り等）、6月第一日曜日は神社・黙魂・交通安全祈願の合同祭、7月末一番草収穫慰労親睦会、8月盆踊り（コロナ禍で中止中）、10月親睦会、12月会館・集会場の女性部による大掃除、大晦日・元旦は有志による神社開所等、

会員の家族全員で参加し楽しんでます。搾乳農家は30年前に20戸営農していましたが、離農や育成・和牛飼育等の経営転換により5戸まで激減しました。しかし、新規就農（離農者の経営継承）が6戸増え、現在は11戸となっています。新しい仲間とこの地域の振興を目指しています。



東西竹集落集会場



懇親会